

第1部 基調講演講師：中山千夏（なかやま・ちなつ）さん略歴

1948年生まれ。8歳で舞台デビュー。「名子役」時代を経て、俳優、テレビタレント、歌手、70年からはライターとしても活躍。『子役の時間』で直木賞候補になるなど、その多才に注目を集めた。また女性解放運動や人権の社会運動家としても著名。80年から参議院議員を一期務めた。現在は著作に専念。80余冊にのぼるノンフィクションのテーマは、女性、人権、古事記と、多岐にわたり、創作では小説のほかに絵本も手掛ける。近著に「日本絵本賞」受賞の『どんなかんじかなあ』（自由国民社）、『海中散歩でひろったリボン〜ボニン島と益田一』（ゆいぽおと）、『幸子さんと私〜ある母娘の症例〜』（創出版）、『蝶々にエノケン』『芸能人の帽子』（講談社）がある。居住する伊豆半島の海をホームグラウンドに、約20年1000本の経験を持つベテランのスクーバダイバーでもある。

第2部 討論パネリスト略歴

山際永三（やまざわ・えいぞう）さん

1932年生まれ。映画監督。作品として「ウルトラマン・シリーズ」「俺はあばれはっちゃく」など。1968年頃から救援運動家。1985年から人権と報道・連絡会事務局長。共著『「悪魔のお前たちに人権はない!」—学校に行けなかった「麻原彰晃の子」たち』（社会評論社）。『検証「拉致帰国者」マスコミ報道』（同）、『憲法から考える実名犯罪報道』（現代人文社）など。

山下幸夫（やました・ゆきお）さん

1962年生れ。1989年4月に弁護士登録（東京弁護士会所属）。現在、日本弁護士連合会刑事法制委員会事務局長、国際刑事立法対策委員会委員長、共謀罪法案対策本部事務局長などを務めている。共著に足立昌勝監修『共謀罪と治安管理社会』（社会評論社）や斎藤貴男・沢田竜夫編著『「治安国家」拒否宣言—共謀罪がやってくる』（晶文社）など。

浅野健一（あさの・けんいち）さん

1948年生まれ、共同通信社記者を経て、94年から同大大学院メディア学専攻博士課程教授（京都地裁で地位確認訴訟中）。1984年『犯罪報道の犯罪』（学陽書房）を発表。『天皇の記者たち』（スリーエーネットワーク）、『戦争報道の犯罪』（社会評論社）、『記者クラブ解体新書』（現代人文社）、『冤罪とジャーナリズムの危機 浅野健一ゼミ in西宮』（鹿砦社）、『安倍政権・言論弾圧の犯罪』（社会評論社）など。

9・27 地裁裁判の証人尋問の傍聴を

浅野教授が2014年2月3日、学校法人同志社（水谷誠理事長）を被告に京都地裁民事6部へ起こした地位確認裁判の証人尋問（第14回口頭弁論）が9月27日（火）午後1時半から4時過ぎまで、京都地裁208号法廷で開かれる。村田晃嗣学長（当時）メディア学専攻の教授5人と共に浅野教授を不当解雇に追い込んだ富田安信・前同志社大学大学院社会学研究科長（現在、社会学研究科産業関係学専攻教授、労働経済論）と原告の浅野教授が証言台に立つ。

地位裁判については支援会のHPを参照ください。 <http://www.support-asano.net/index.html>

シンポの最初に、京都地裁の証人尋問と裁判の今後について支援会から報告します。

9・27シンポは7月7日、同志社大学で開かれた「浅野健一教授ジャーナリズム講座」主催の「英米特派員から見たキヤクラブメディア」に次ぐ企画。第1回シンポの記録は「紙の爆弾」（鹿砦社）9月号と京都大学新聞（8月1日号、第2571号）に掲載されている。また、また動画（アーカイブ）はIWJの会員サイト（有料）で見ることができ、無料で、ダイジェスト映像が公開されています。 <http://iwj.co.jp/wj/open/archives/314941>

浅野教授の雇用闘争を支援する同大の学生有志が、8月3日に同大の松岡敬学長と水谷理事長へ、浅野教授の教壇復帰と3年連続「休講」になっている浅野教授の担当科目の開講を求める要望書を提出しました。

現在も、自主ゼミの有志、「浅野先生を守る会」、浅野教授の文春裁判を支援する会が、現役学生と卒業生に、この要望書への賛同を呼び掛けています。まだ署名していない方は9月19日までに署名をお願いします。

支援会HP <http://www.support-asano.net/docs/yobikake3.html>

賛同していただける方は、学生有志幹事の大内健史（mr.ootake@gmail.com）へ連絡ください。